

## Population-based Health Management :

一次予防から三次予防、そして、コミュニティ・オーガニゼーションへ

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 森山美知子

### Disease Management から Population-based Health Management へ

特定の慢性疾患や状態の重症化予防に焦点を当てた、いわゆる古典的な Disease management (疾病管理) は、特に米国におけるさまざまな社会実験を経て、かかりつけ医を中心としたプライマリケアの支援に、そして、End-of-life care から Wellness、ハイリスクからローリスクまでの、疾病管理を含む幅広い健康スペクトラムを対象としたモデル (Population Health Management, Population Health Improvement Model) へと変化してきている (図 1)。

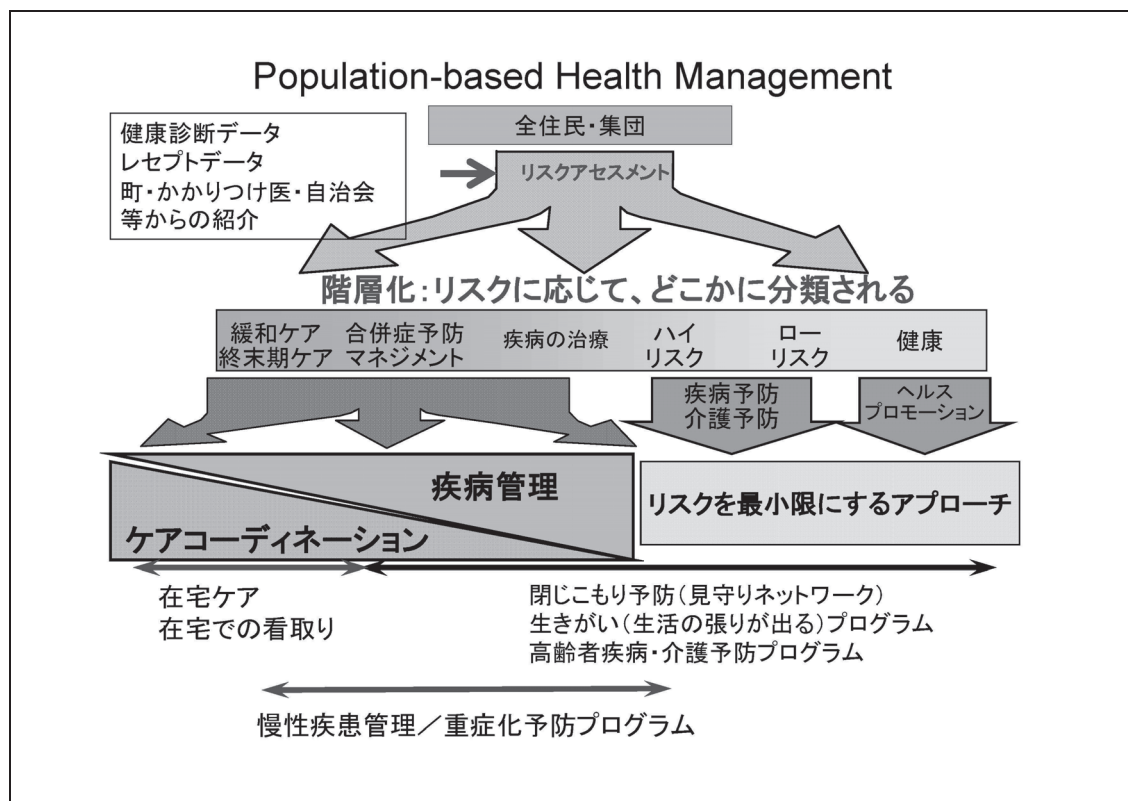


図 1 Population-based Health Management 概念図

(Warren Todd 氏のスライドを改変)

### 時代の変化と共に：基本理念の重要性

コミュニティの変化、職場の変化、家族をもたない者の増加など、人々の親密な相互支援関係が希薄になり、生きる意味や目的が見出せない者も増加し、人々の健康リスクは増大している。社会的なストレスが、人々の生活に影響を及ぼし、健康障害をもたらす。Population-based Health Management では、地域の抱える問題/集団の抱える健康リスクをアセスメントし、地域/集団の構成メンバーを巻き込んだ対策が必要となる。構成メンバーの主体的参加とリーダーシップ、発症予防から重症化予防/慢性疾患管理までの self management 支援/医療者等との collaborative care の立案と実施、適切なサービスのケアコーディネーションなど、地域/集団の健康向上に向けたデザインが必要となる。

地域には、安定した暮らしを支えるために必要な資源が圧倒的に不足している。重症度の高い難病患者、高齢独居／夫婦世帯、認知症、うつなどの社会復帰に困難をきたす者、精神疾患、ホームレスなどの貧困や社会的弱者へのサービス。「施設ケア」の発想から抜け出し、必要なサービスを創造・構築して、地域で人々を支えたい。

地域で人々が最期まで安心して暮らせるために！